

(4) 教育普及事業

1. 事業の基本的な考え方

展示解説、普及活動等を行う教育普及事業は、調査・収集・整理・保存・展示・研究などの諸活動とともに、文学館活動の中で重要な位置を占める。社会教育・学校教育との連携を図りつつ、文学専門の博物館としての特性を生かし、年間を通しての文学講座や講演会、創作教室、文学的に価値ある映画の上映、朗読公演会など、文学について学び親しむ事業を幅広い世代に向けて行っている。

また、山梨ゆかりの作家や作品の資料を活用した学習プログラムや子ども向け事業の充実を図ることは、郷土への関心を高め、郷土を愛し、郷土に誇りを持てるような心情を育むという点からも重要であると考えられる。

※令和4年12月1日（木）から令和5年4月30日（日）まで館内設備工事のため休館となり、例年と事業の時期が変更となった。

2. 教育普及活動の内容

(1) 特設展・企画展関連教育普及事業

特設展「芥川龍之介 生誕130年 旅の記憶」「文芸雑誌からZINE(ジン)へ—古今同ZINE誌—」、企画展「樋口一葉 生誕150年 我が筆とるはまことなり—もっと知りたい樋口一葉」に関連して、作家・研究者・関係者による講演会や関連講座を行った。特設展・企画展のテーマを詳しく解説し、展示では扱えなかった視点から考察を加えるとともに、特設展・企画展そのものへの理解を深められるように実施した。外部講師及び職員による講演会・講座などを通して文学を学ぶ機会を提供した。

- ①外部講師及び職員による講演会・文学講座事業を実施。
- ②関連映画鑑賞会を実施。
- ③関連ワークショップを実施。
- ④チャレンジクイズを作成。

楽しみながら展示の内容が学べる小中学生対象のクイズを通して、文学や作家について学ぶ機会を提供した。

※各講演会に関しては、講堂内ソーシャルディスタンス確保のため、定員500名のところを150～240名の定員で実施した。

(2) 年間文学講座

年間文学講座は平成2年度から実施している。県民の興味・関心に応じて幅広く学べるよう配慮し、テーマ設定に当たっては講師の専門性を生かすことを心がけている。令和4年度は、池田尚隆氏（元山梨大学教授）「古典文学講座（全8回）」と大村梓氏（山梨県立大学准教授）による「近代文学講座（全8回）」の2講座を実施した。

講座1のテーマは「『源氏物語』入門—“若い”光源氏を描く巻々」、講座2のテーマは「ジャンルを超える文学の可能性2」であり、募集定員はソーシャルディスタンス確保のため講堂で行うものは100名、研修室で行うものは40名とした。

(3) 名作映画鑑賞会

文学作品を映画化した名作の数々を上映し、文学と映画の関わりについて考え、作品をより深く理解してもらうための企画である。平成2年から毎年実施している。令和4年度は一般向け映画会「羅生門」「潮騒」の2回、子ども向け映画会「若女将は小学生！」を1回実施した。講堂内のソーシャルディスタンス確保のため150名の定員で実施した。

(4) 朗読公演会

作品（詩・小説など）の魅力を朗読公演によって鑑賞する一般向けの企画を1回実施した。これは、開館の年から毎年開催、幅広い年齢の聴衆から大変好評を博している。令和4年度は、奥山眞佐子氏（俳優）による「語り—『たけくらべ』『一葉日記』」を実施した。

(5) 文学創作教室

俳句をはじめ短歌や詩、エッセイなどの創作を通じて、文化活動を推進する。小・中・高校生をはじめ広く県民を対象に、文学創作講座を実施した。令和4年度は、三枝昂之館長と三枝浩樹氏による短歌教室（計4回）を開催した。また、川上健一氏を講師とする初心者小説創作教室を2回連続講座として、吉田朝麻氏を講師とするZINE作り教室を開催した。

(6) 山梨の文学解説講座（出前講座）

この講座は、学芸課の職員が学校や市町村施設などに出向き、文学者や作品を紹介したり文学に関する講座を行ったりするものである。令和4年度においても要請を受けた団体において可能な限り対応することができた。

(7) 教師のための学習会

県内の小・中・高校・特別支援学校の教職員を対象に春の特設展と秋の企画展に関わり、文学館職員による説明と観覧を通して、国語教育への活用を図ることができた。令和4年度は2回開催した。

(8) 児童生徒向け事業について

将来の山梨を担うことになる子どもたちに、山梨ゆかりの文学と文学者について学びきっかけを作る。学校教育との連携をより緊密にして、文学を通して豊かな心を育てていく。

① 文学教室

年間を通じ、随時開催する。小学校、中学校、高等学校の要請に応じ、当館が展示する内容について、解説を行った。

② ワークショップ

主に子どもを対象とした参加型・体験型の教室を開催し、文学を身近に感じ、文学や文学者に興味を持ってもらう機会とする。令和4年度は、春の特設展に関連して、「消しゴムハンコで“河童”を描こう!」、9月に「川柳を詠もう」、企画展に関連して10月に「つまみ細工で水仙コサージュを作ろう」、また11月には「第13回小学生百人一首大会」を開催した。

③ 学習ガイド（ジュニアガイドブックと教育普及用資料集）

県出身又はゆかりの文学者や作品について、小中高生の理解を深めるために、教育普及資料集を作成している。平成27年度は宮沢賢治の、29年度は樋口一葉の教育普及資料を改訂するなど、随時見直しを行っている。

また、常設展示室に展示されている山梨県出身およびゆかりの文学者について、わかりやすく解説したジュニアガイドブックを活用し、子どもたちが文学への興味や関心を持てるようにしている。

④ チャレンジ文学館

常設展を見に来た子どもたちが、ポイントをつかんで楽しく観覧できるように、常設展クイズ「わたしはだあれ?」を実施し活用を図っている。また、芸術の森公園内に、俳句や詩、短歌や童謡、小説やエッセイの一節を書いた24本の柱を立て、「文学の柱追跡散歩」としてクイズを実施している。

⑤ チャレンジクイズ

楽しみながら企画展や特設展の内容が学べる小中学生対象のクイズを作成。「チャレンジクイズ」を通して、文学や作家について学ぶ機会を提供している。

⑥（ジュニア）インターンシップ（就業体験）

子どもたちの職業観・勤労観を、より早い段階から育成するとともに、将来において自らの進路を自分で選択できる能力を育てていくことが課題となっている。文学館としても、中・高校・大学生のインターンシップを積極的に受け入れ、若年者の職業意識形成支援に積極的に取り組んでいる。令和4年度は高校生（城西高校）2名、大学生（ICU）1名を受け入れた。

⑦ 学習資料・アウトリーチセットの貸与

館作成資料の一部を学習のために貸与する。要請により、学校をはじめ、生涯学習事業等に対して貸与を行う。令和4年度は、「石川啄木セット」を県内小中高校1校に、「飯田蛇笏・龍太のちまみ人形セット」は貸し出しがなかったが、「村岡花子と「赤毛のアン」の世界セット」を2校に、「宮沢賢治～イーハトーブの世界・嘉内（かない）との友情物語～セット」を4校に、「芥川龍之介の夏休みセット」を2校に、そして「文豪ストレイドッグス」を11校に貸し出した。

(9) やまなし文学賞

平成4年4月、山梨県にゆかりの深い樋口一葉の生誕120年を記念して制定された。やまなし文学賞実行委員会が主催、文学館で事務局を担っている。

令和3年度までは一般小説部門と研究・評論部門であったが、令和4年度は要項を改め、小説の募集を行う一般部門・青少年部門の2部門が設けられた。令和4年度は一般部門417編、青少年部門20編の応募があった。

(10) おうちで文学クイズ

文学館ホームページ内に「おうちで文学クイズ」を小中高生向けに掲載。内容は、初級編「俳句・季語当てクイズ」・中級編「文豪作品イントロクイズ」・上級編「小説家クロスワードパズル」と3段階にした。

(11) 夏の企画—戦争を見つめる—

ロシアによるウクライナ侵攻という世界情勢において、専門委員会からの意見を受け、戦争と文学を考える事業を連続講座と映画観賞会として行った。講座1として三枝昂之館長が「柳原白蓮の戦争—吾子は死なねばならぬ命か」、講座2として萩原茂氏による「太宰治の戦争—戦時下における表現と作品群」の講演を行った。映画観賞会として「アイダよ、何処へ?」を上映した。

教育普及事業の実施状況

分類	事業名	内容 講師等	開催日	会場	参加人数	合計
年間 文学 講座	年間文学講座1 『源氏物語』入門―“若い” 光源氏を描く巻々― 講師：池田 尚隆 (元山梨大学教授) 14：00～15：30 90分間	①「桐壺」巻	4月22日(金)	研修室	40人	303人
		②「帚木」「空蟬」巻	5月20日(金)		35人	
		③「夕顔」巻	6月17日(金)		35人	
		④「若紫」巻	7月15日(金)		33人	
		⑤「末摘花」巻	8月19日(金)	講堂	40人	
		⑥「紅葉賀」「花宴」巻	9月30日(金)		36人	
		⑦「葵」巻	10月21日(金)		44人	
		⑧「賢木」巻	11月18日(金)		40人	
	年間文学講座2 「ジャンルを超える文学の 可能性2」 講師：大村 梓 (山梨県立大学准教授) 14：00～15：30 90分間	①文学作品に描かれる都市―川端康成 『浅草紅団』	4月16日(土)	研修室	21人	197人
		②洋装と和装の人々―幸田文『流れる』、 谷崎潤一郎『細雪』	5月14日(土)		34人	
		③芥川龍之介による切支丹物	6月4日(土)		32人	
		④異国から日本を描く―カズオ・イシグロ	7月2日(土)		34人	
		⑤フランスかぶれの日本人たち― 与謝野晶子の時代から現代まで	8月6日(土)		20人	
		⑥ミステリーは学校で起こる―辻村深月、 宮部みゆき	9月24日(土)		16人	
⑦お転婆な女たち―樋口一葉「たけくらべ」		10月15日(土)	24人			
⑧震災について詠む・書く、歌人・詩人 たち―俵万智ほか		11月12日(土)	16人			
特設 展・ 企画 展	「芥川龍之介 生誕130年 旅の記憶」関連事業	講演会「芥川龍之介の講演旅行―紀行文 「東北・北海道・新潟」をめぐって」 講師：庄司達也	5月21日(土)	講堂	75人	813人
		教師のための学習会①	6月2日(木)		13人	
	「文芸雑誌からZINEへ」 関連事業	ZINEフェスティバル	7月24日(日)	研修室	136人	
		原きよ朗読会	8月7日(日)	講堂	61人	
	「樋口一葉 生誕150年 我が筆とるはまことなり― もっと知りたい樋口一葉」 関連事業	講演会 笛吹川の響きに夢を結んで―樋 口一葉「ゆく雲」における時空の構造に ついて― 講師：ロバート キャンベル	9月19日(月・祝)	講堂	179人	
		朗読公演会 語り―「たけくらべ」「一 葉日記」 出演：奥山眞佐子	9月23日(金)		164人	
		講演会「育英舎の少女―『たけくらべ』 へのビューポイント」 講師：高田知波	10月8日(土)		53人	
		教師のための学習会②	10月20日(木)		9人	
		対談「一葉と晶子―和歌から短歌へ」 講師：三枝昂之・今野寿美	10月22日(土)		講堂	

夏の企画―戦争を見つめる―	連続講座	「柳原白蓮の戦争―吾子は死なねばならぬ命か」 講師：三枝昂之	8月9日(火)	研修室	32人	152人	
		「太宰治の戦争―戦時下における表現と作品群」 講師：萩原茂	8月10日(水)		33人		
	映画上映会	アイダよ、何処へ？	8月11日(木)	講堂	87人		
鑑名作映画賞 賞作映画会	一般向け	羅生門	6月5日(日)	講堂	125人	272人	
		潮騒	10月10日(月)		130人		
	子ども向け	若女将は小学生！	8月21日(日)		17人		
文学創作教室	小さな本―ZINE (ジン)―作り教室	ZINE作り 講師：吉田朝麻	7月23日(土)	研修室	27人	190人	
	川柳を詠もう	川柳作り 講師：井上信太郎	9月11日(日)		30人		
	初心者短歌教室	初心者短歌教室①	講師：三枝浩樹		5月28日(土)		18人
		初心者短歌教室②	講師：三枝浩樹		6月19日(土)		18人
	小説創作教室	小説創作教室①	講師：川上健一		6月25日(土)		16人
		小説創作教室②	講師：川上健一		10月16日(日)		19人
	短歌講座	短歌講座	講師：三枝昂之		9月3日(土)		29人
短歌講座		講師：三枝浩樹	10月29日(土)	33人			
ワークショップ	消しゴムはんこで“河童”を描こう	消しゴムはんこ作り 講師：アオヤギルミ	5月29日(日)	研修室	27人	71人	
	つまみ細工で水仙コサージュを作ろう	つまみ細工づくり 講師：飯島薫	10月30日(日)		22人		
	第13回小学生百人一首教室	講師：竜王カルタ会	11月13日(日)		22人		
講座前	山梨の文学解説講座	ことぶき勸学院 (日本の文学古典)	6月24日(金)		21人	552人	
	小中高文学教室	合計6回	通年		531人		
解文説学	展示解説等 (一般県民)	国母高齢者学級	10月25日(火)	常設展 特設展 企画展	33人	1,650人	
	展示解説等 (小中高大)	合計37回	通年		1,617人		
チャレンジクイズ	企画展チャレンジクイズ	小中高一般	9月17日～11月23日	企画展	498人	4,250人	
	特設展チャレンジクイズ	小中高一般	4月23日～6月19日、 7月16日～8月28日	特設展	2,427人		
	チャレンジ文学館 (わたしはだあれ?)	小中高一般	通年	常設展	1,124人		
	文学の柱	小中高一般	通年	芸術の森公園	201人		
学芸員実習	ジュニアインターンシップ	中高生	7月26日～29日		3人	7人	
	学芸員実習	大学生	7月18日、 20日～24日		4人		
その他	アウトリーチ (移動文学館)	小中高など (合計20件)	通年		7,078人	7,863人	
	やまなし文学賞	作品申込数 (一般部門417、青少年部門20)	募集期間6月1日 ～11月30日		437人		
	普及広報活動	校長会訪問など			348人		

(5) 刊行物の記録

① 山梨県立文学館館報 (A5版カラー8頁 観音折り)

115号 令和4年9月10日発行

【寄稿】 樋口一葉はSNSを使いこなすか? 古川裕佳 (都留文科大学教授)

116号 令和5年3月10日発行

【寄稿】 つくつく法師を嫌いにならないようになるために

金田一秀穂 (言語学者・山梨県立図書館館長)

② 「樋口一葉 生誕150年 我が筆とるはまことなり 一もっと知りたい樋口一葉」 図録 寄稿一覧

「土族の誇り」の虚実

高田 知波

『源氏物語』と西鶴、そして樋口一葉

兵藤 裕己

樋口一葉はSNSを使いこなすか?

古川 裕佳

歌人樋口なつ、折々の歌の魅力—ゆく水の流にうかぶ身なれば

三枝 昂之

③ 資料と研究 第二十八輯 令和5年3月31日発行 A5版111頁

令和4年度企画展「樋口一葉 生誕150年 我が筆とるはまことなり 一もっと知りたい樋口一葉」より

講演会 笛吹川の響きに夢をむすんで 一樋口一葉「ゆく雲」における時空の構造について— (抄)

ロバート キャンベル

講演会 育英舎の少女 一『たけくらべ』へのビューポイント

高田 知波

対談 一葉と晶子 一和歌から短歌へ

三枝昂之・今野寿美

常なき日々の歌 (三) 一戦争はどう詠われたか

三枝 昂之

飯田蛇笏 高室呉龍宛書簡 翻刻 一九三七年～一九五六年

高室 有子

佐佐木茂索日記「且楽軒記」六① 翻刻

保坂 雅子

中村星湖作成スクラップブック㊦その三

山形敏貴・日下部光代・高木美和・水上百合子

編集後記

(6) 閲覧室の運営

① 閲覧室の設置

山梨県立文学館設置及び管理条例と施行規則に基づき、県民・文学館来館者への資料・情報の提供及び調査・研究に対する助言を主な事業として、閲覧室の運営を行っている。

② 閲覧室の利用

ア 利用時間

平日 午前9時～午後7時
(午前9時～午後4時)
土・日・祝日 午前9時～午後6時
(午前9時～午後4時)

※令和4年12月1日から、令和5年4月30日まで、空調工事のため全館休館した。

イ 利用手続

書庫内の資料を利用する場合は、「閲覧カード発行申込書」に必要事項を記入し、「閲覧カード」の交付を受ける。閲覧を希望する資料名を「文学資料等閲覧承認申請書」に記入し、受付に申し込む。

ウ 利用対象

文学資料などの調査・研究、読書を目的とした利用とする。

③ 閲覧室の業務

ア 所蔵資料の閲覧・情報提供

閲覧室では文学作品・文学研究書を中心とした図書、逐次刊行物、県内外芸誌、新聞などを収集し、利用に供している（一部禁閲覧資料あり）。また、画像情報システムにより、特殊資料の芥川龍之介資料、樋口一葉の「たけくらべ」再掲本原稿（複製）、中村星湖「少年行」原稿、山崎方代草稿など、実物の閲覧が困難な資料を、画像で閲覧に供している。

イ 文献検索システムによる書誌情報の提供

所蔵資料（図書、逐次刊行物、特殊資料、マイクロ資料、視聴資料）の書誌情報は、文献検索システムにより、閲覧室内のコンピュータ端末及び当館ホームページからの検索が可能である。

図書は通常の書誌情報に加え、内容細目もデータ化し、全集・シリーズに収録されている個々の作品名、作者名からの検索も可能としている。

逐次刊行物については、一部のものは論文名、作品名、執筆者名からの検索も可能である。

ウ 調査・相談業務（レファレンスサービス）

閲覧室に寄せられた調査・相談・照会などの依

頼に対しては、文献に基づき、司書、学芸員などが対応している。質問は、電話、文書、FAX、電子メールでも受け付けている。

※工事休館中は電話・メールのみ対応した。

エ 複写サービス

著作権法に基づき、一部の禁複写資料を除き、所蔵資料の複写サービスを行っている。（有料）

※工事休館中は郵送複写のみ対応した。

オ マイクロ資料閲覧室の利用

山梨日日新聞や明治期刊行物集成などのマイクロ資料の利用に供している。

※コロナ対策のため、引き続き予約制とした。

カ ビデオブースの利用

文学館の紹介及び文学資料の情報を多角的に提供するため、閲覧室にビデオブースを併設し、文学関連の映像資料を提供している。

※コロナ対策のため休止していたが、4月より定員1名として再開した。

キ 朗読テープ・CDの利用

朗読テープ・CDは文学関係のものを中心に所蔵し、コーナーを設けて利用に供している。

※コロナ対策のため、引き続き利用を休止した。

ク 個人研究室・共同研究室の利用

閲覧室内に個人研究室2室、共同研究室2室が併設されており、研究・研修などの利用に供している。（有料）

※コロナ対策のため休止していたが、10月14日より、個人研究室は定員1名、共同研究室は定員4名として再開した。

ケ 資料紹介

所蔵する資料のほとんどが書庫内にあり来館者の目にふれることが少ないため、収蔵している図書・雑誌の紹介を目的として、テーマを決めて閲覧室内で「資料紹介」を行っている。

コ 閲覧室トーク

職員が、閲覧室内で、提供しているサービスや、資料の検索方法、閲覧方法等を説明するとともに特色ある所蔵資料を紹介した（年4回開催）。

④ 閲覧室の新型コロナウイルス感染拡大防止対策

前年度同様、消毒液・空気清浄機の設置、定期的な除菌作業の実施、閲覧席・書架の一定の間隔の確保、密になるスペースの提供休止、カウンターへのアクリル板の設置等の対策を講じた。

閲覧室事業実施状況

◆「閲覧室資料紹介」

	タイトル	展示期間	備考
1	芥川龍之介再発見	令和4年4月23日(土)～6月19日(日)	特設展「芥川龍之介 生誕130年」関連
2	文芸誌・同人誌いろいろ	令和4年7月16日(土)～8月28日(日)	特設展「文芸雑誌からZINE(ジン)へ」関連
3	今に生きる一葉	令和4年9月17日(土)～11月23日(水・祝)	企画展「樋口一葉 生誕150年」関連

◆「山梨の文学者資料紹介」

	対象者	展示期間	備考
1	文学者が描く武田信玄と武田家	令和4年4月6日(水)～4月21日(木)	信玄公生誕500年関連事業
2	鳴山草平 生誕120年・没後50年	令和4年6月22日(水)～7月14日(木)	
3	誕生日にちなんだ資料紹介 宮沢賢治(8月27日生まれ)	令和4年8月24日(水)～9月15日(木)	

◆「その他の資料紹介」

	タイトル	展示期間	備考
1	七夕と星のうた	令和4年6月22日(水)～7月14日(木)	
2	「こどものとも」復刻版	令和4年7月16日(土)～8月28日(日)	美術館「絵本原画の世界2022展」連携
3	近藤信行前館長追悼	令和4年7月17日(日)～24日(日)	
4	太宰治関連資料	令和4年8月7日(日)	原きよ氏朗読会関連
5	「戦争を見つめる」関連資料	令和4年8月9日(火)～8月12日(金)	「戦争を見つめる」講座・映画会関連
6	ロバート キャンベル氏関連資料	令和4年9月19日(月・祝)	講演会関連
7	樋口一葉関連資料	令和4年10月8日(土)	高田知波氏講演会関連
8	川上健一氏著作	令和4年10月16日(日)	小説創作教室関連
9	三枝館長・今野寿美氏関連資料	令和4年10月22日(土)	対談イベント関連

◆ 閲覧室トーク

閲覧室の利用方法やサービス、特色ある所蔵資料などを30分程度で紹介した。5月5日(木・祝日)、6月5日(日)、8月11日(木・祝日)、11月20日(日・県民の日)の全4回開催した。

◆ Twitterによる情報発信（12月～4月の工事休館中）

「今日の文豪」、「心に残る名文」と題したシリーズで、文学者に関する話題を発信した。



閲覧室資料紹介「今に生きる一葉」



閲覧室トーク

(7) 芸術の森公園活性化事業

令和3年度に続いて、芸術の森公園と文学館・美術館、茶室・素心菴の魅力をPRし、賑わいを生み出すため実施した。令和4年度は、紅葉の見頃を迎えた公園と企画展「樋口一葉 生誕150年 我が筆とるはまことなり—もっと知りたい樋口一葉」への誘いとして以下の内容で実施した。

「フォトスポット in 芸術の森公園 ～一葉と紅葉を見に行こうよ！～」

日時：令和4年11月3日（木・祝） 10時～16時

場所：素心菴及び芸術の森公園ほか

内容：・「一葉といっしょに謎解きチャレンジ！」

（素心菴から公園内、文学館の各ポイントを巡ってクイズラリーを実施）

・素心菴内でのパネル展示

「おしえて一葉ちゃん」（樋口一葉のプロフィール）

「げいじゅつのもりこうえんをあるこう！！」（四季折々の公園内の写真）

「茶室素心菴へようこそ」（素心菴の紹介）

・素心菴内でのイベント

「短歌をつくろうっ！」

（文字カードを組み合わせて短歌を作るコーナーを設置。短冊に書いた作品を掲示）

「茶室素心菴で記念撮影！和傘のフォトスポット」

（室内に和傘をディスプレイしたコーナーを設置。指定管理者が対応）

「オリジナルエコバッグをつくろう！」

（一葉スタンプを押してバッグを作るコーナー設置。指定管理者が対応）

※同日、指定管理者による公園内の「人力車体験イベント」も実施され、協力を得た。

参加者：素心菴入場者は190名



(8) 新型コロナウイルス感染症対応の記録

令和4年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の全国規模の流行に対応するため、様々な感染防止対策を行った。

1 基本的な感染症対策

1) 来館者へのお願い（令和3年度から継続）

- ・入館前の入館者チェックシートの提出
- ・マスクの着用
- ・発熱、風邪症状、味覚障害など体調に不安のある方等は、来館を控えること
- ・入館時の非接触での検温
- ・手洗い、手指消毒の徹底
- ・作品鑑賞時に、他の来館者と1m以上の距離を開けること
- ・壁や展示ケースに触れないこと

・令和4年6月1日、マスク着用の協力要請について、「館内で会話をする場合、身体的距離が2m以上確保出来ない場合に着用を依頼する場合がある」と変更した。（令和4年5月27日付 県の協力要請による）

・令和4年10月12日、入館前の入館者チェックシートについて、氏名・緊急連絡先等の個人情報取得を廃止した。（日本博物館協会「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」9月8日改訂による）

2) 文学館の主な取り組み（令和3年度から継続）

- ・館内のソファの一部を撤去
- ・定員に応じた入場制限
- ・鑑賞型展示（接触型展示部分）や体験型展示など、展示内容の一部閉鎖
- ・アルコール消毒液、ハンドソープの設置
- ・ウォーターサーバー等の一部設備の停止
- ・スタッフはマスク着用で対応

2 各事業の対応

1) 展示室の運営

【常設展】

- ・入場者数の制限や以下の展示制限等は、継続して行った。
- ・展示室内の椅子の一部を撤去した。
- ・樋口一葉「たけくらべ」と芥川龍之介「鼻」の朗読コーナーは、ヘッドフォン・スイッチに利用者が触れるため、撤去した。
- ・芥川龍之介コーナーの画像視聴コーナー（モニター2台）は、監視員が利用者の要望に応じて操作する方式とした。
- ・「飯田蛇笏・龍太記念室」と「第5室」の間においたモニター3台（「山梨の文学散歩」視聴用）を休止していたが、1台を再開し、ボタン操作の際に使用出来るアルコール消毒を設置した。

【企画展】「樋口一葉 生誕150年 我が筆とるはまことなり 一もっと知りたい樋口一葉」

- ・令和2年度以降、中止していたオープニングセレモニーを実施した。

2) 閲覧室の運営

- ・前年度に引き続き、以下の対策を行った。
空気清浄機、カウンターへのアクリル板、消毒液の設置。定期的な除菌作業の実施。
閲覧席・書架の一定の間隔の確保。

- ・令和4年4月12日、令和2年以降休止していたビデオブース、マイクロ資料閲覧室の利用を、人数を1名に制限して再開した。CD・カセットコーナーの利用を再開した。
- ・令和4年10月14日、令和2年以降休止していた、個人研究室・共同研究室の利用を再開した。
個人研究室 2名→1名 共同研究室：8名→4名

3) 教育普及事業の運営

- ・講堂・研修室での催しは、前年度に引き続き利用者数制限に応じて実施した。
研修室では講師と聴講者の間にアクリルパネルを設置し、講堂は、講師と聴講者の距離を確保して講座・講演会を実施した。

4) ミュージアムショップ（協力会運営）

- ・通常運営を行った。

5) 貸館

- ・前年度に引き続き、貸館の定員を変更して制限した。
(講堂：250名、研修室：1室15名、茶室：全室15名)

6) 喫茶室

- ・令和4年4月からオープン時刻を10：00に変更した。
- ・令和3年度から引き続き、客席テーブルにはアクリルパネルを設置した。

7) その他

- ・令和2年度以降、書面開催していた文学館専門委員会は、対面開催とした（令和5年3月23日、東京・學士会館）。
- ・令和元年度～3年度の3カ年中止していた、やまなし文学賞の第31回表彰式を実施した。